

令和 7 年度
鹿児島大学共同獣医学部共同獣医学科
学校推薦型選抜 II

小 論 文 問 題

この問題冊子は合図があるまで開かないこと。

この問題冊子は表紙、メモを含む 4 ページからなる。

印刷が不鮮明な場合や落丁等がある場合には挙手で監督者に知らせること。

問題は全部で 2 問である。2 問とも回答すること。

<メモ>

問 1

近年、新たな感染症や動物福祉など、世の中では獣医学にも関連する様々なニュースが注目されています。そこで、最近知った事例を一つ取り上げ、その内容を紹介すると共に、あなた自身の考えを交えて、800 字以内で記述しなさい。

問 2

以下の文章を読み、獣医師が動物の安楽死を遂行する際に考慮しなくてはならないことについて、800 字以内で記述しなさい。

安楽死 (euthanasia) の語源はギリシャ語の「よい (eu)」と「死 (thanatos)」に由来する。安楽死という用語は、一般的に、痛みや苦しみを最小限にして、または排除して、個々の動物の命を終わらせることを意味する。よい死とは動物の命を人道的に終わらせることである。

人道的に死に至らしめることは、動物にとって最良である処置を施し、かつ、動物にとって最良の結果がもたらされることに貢献したいという獣医師の思いを反映している。したがって、人道的に死に至らしめる安楽死は、意図的にそうするか、結果としてそうなるかのどちらかである。人道的に死に至らしめる安楽死は、飼い主や獣医師が、死が動物にとって望ましい状況であり、延命が好ましい状況でないと判断する場合に実施される。

出典：米国獣医学会 動物の安楽死指針 (安楽死ガイドライン)：2020 年版、p4-5、一部抜粋